

## ストレートスカートの動作適合におけるゆとり量について

文化女大家政 ○筋野淑子 大井久美子

目的：下半身衣服のうちストレートスカートについて、静立時と動作時において着用者が最適な着心地と判断し、抽出したスカートから、快適なゆとり量の定量化を試みた。

方法：被験者は満19～22歳、ローレル指数が平均1.29、普通体の成人女子50名とした。スカート丈は55cmとし、後ろ明きで10cmのスリットを入れた。ウエスト寸法は61, 63, 65cmの3サイズ、ヒップ寸法は90, 92, 94, 96, 98cmの5サイズを組み合わせて計12着とし、素材はサージを用い、総裏とした。実験は、所定のブラウスにスカート12着を着用させ、静立時及び平地歩行・階段上昇・椅座位の3動作から、それぞれ最適なゆとり量と判断し、抽出させたスカートから、定量的なゆとり量の算出を試みた。

結果：静立時に適するスカートのウエスト寸法は、ナチュラルなWL囲より平均 $-0.71\text{cm}$ 、動作時では平均 $-0.59\text{cm}$ で、いずれも計測値よりマイナス傾向を示し、差は $0.12\text{cm}$ であった。スカートのヒップ寸法は、静立時においてHL囲（外包囲）に平均 $1.09\text{cm}$ 、動作時では平均 $2.35\text{cm}$ 大きく、差は $1.26\text{cm}$ であった。以上、ゆとり量はウエスト寸法よりヒップ寸法の方が差は大きく、動作によって部位のゆとり量が異なることも考察できた。

スカートのヒップ寸法をHL囲（ヌード）から算出すると、動作時のヒップ寸法との差は $3.54\text{cm}$ で、 $H/4 + 0.9\text{cm}$ となることが確認された。又、スカートのウエスト・ヒップ寸法は、静立時・動作時いずれも着用者間のゆとり量にバラツキが大きいことも考察できた。